

mettre の制約に関する一考察

佐々木 幸太

(関西学院大学非常勤)

本発表では、開始アスペクトマーカ― *se mettre à Inf.* の核となる *mettre* がどのような特性をもった動詞であるかを解明するために、行為の「対象 Y」または「Y の新しい位置・状態 Z」が人の場合の *mettre* の使用にかかわる制約を論じる。とくに注目するのは、(1), (2) のような発話とちがって (3)-(5) のような発話 (Y または Z が人) がときに容認度が低いという事実である。

- (1) C'est ainsi que le matin, quand Georgette rentre, il ***met son café au lait dans sa soupe*** pour savoir quel goût aurait ce mélange. (Soupault, P., 1928, *Les Dernières nuits de Paris* : 60)
- (2) Après ***avoir mis en marche la cafetière***, j'ai pris un bain dans une baignoire pleine.
(Hassen, B., 2015, *Pauvre Martin, pauvre misère* : 34)
- (3) ?Claude ***a mis Camille à faire la cuisine / à laver la vaisselle***. (Saunier, 1996 : 63)
- (4) a. Je vais ***te mettre à décharger la camionnette*** moi, tiens, tu vas voir si tu vas rigoler.
b. " tu ne veux tout de même pas dire qu'une femme qu'ils ***la mettent à faire de la soudure?*** (*ibid.* : 64)
- (5) Claude ***a mis {trois heures de colle à Dominique / * trois heures de congés à Dominique}***. (*ibid.* : 81)

この事実に言及した Saunier (1996) は、(3), (4) について、行為主体 X と対象 Y が敵対している文脈や論争的な対話場面では *mettre* が容認されると述べている。しかし、その理由は明らかにしていない。また、また、(5) は Y が Z にとって望ましい場合は容認度が低いとしている。しかし、実例を見るとそのような場合でも、*mettre* が容認される場合があることが分かる。本発表では、言語実態の観察にもとづいて、Y または Z が人の場合に、*mettre* の容認度が下がる要因を明らかにしたい。